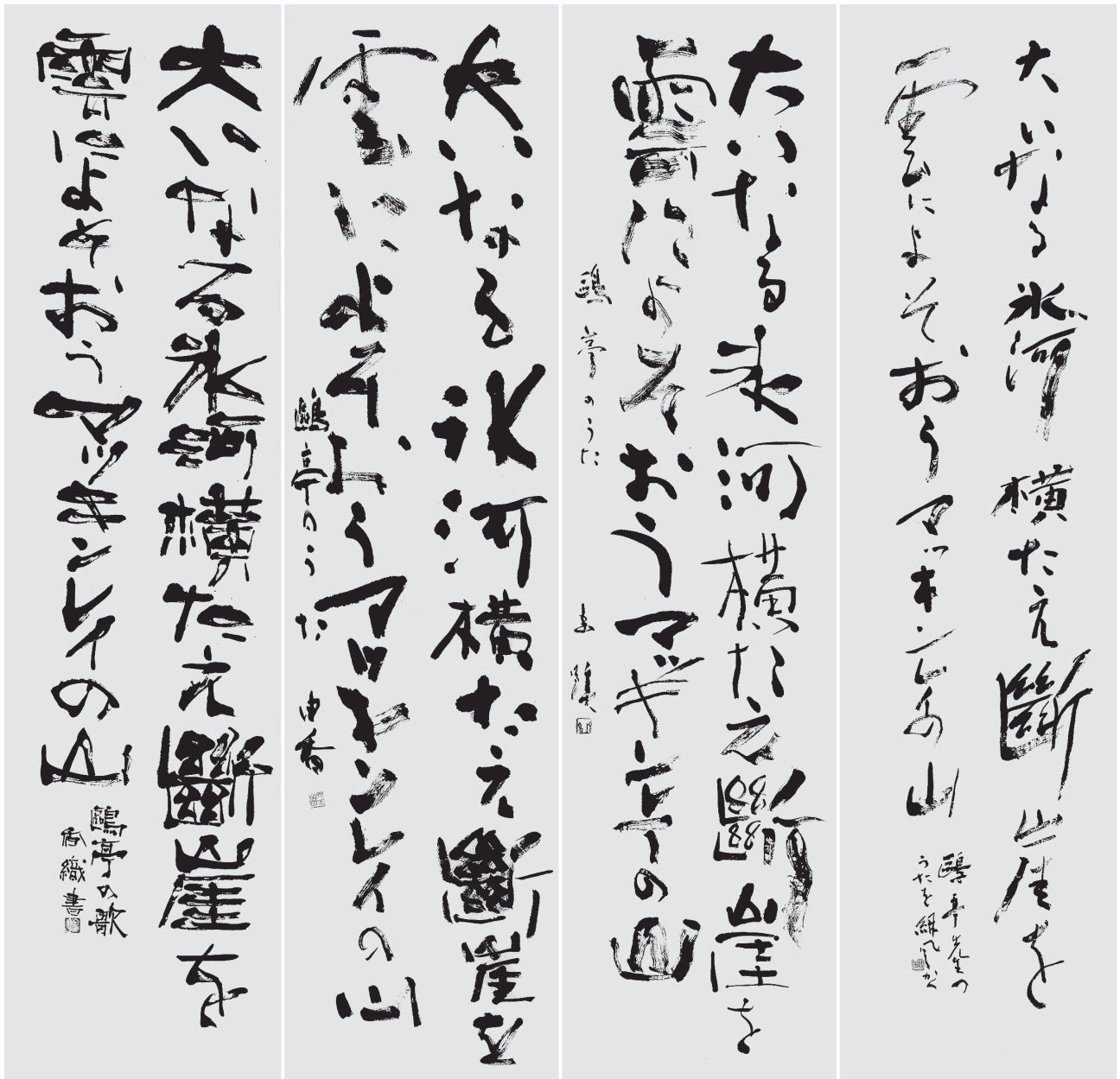


伊藤漢仙先生選評

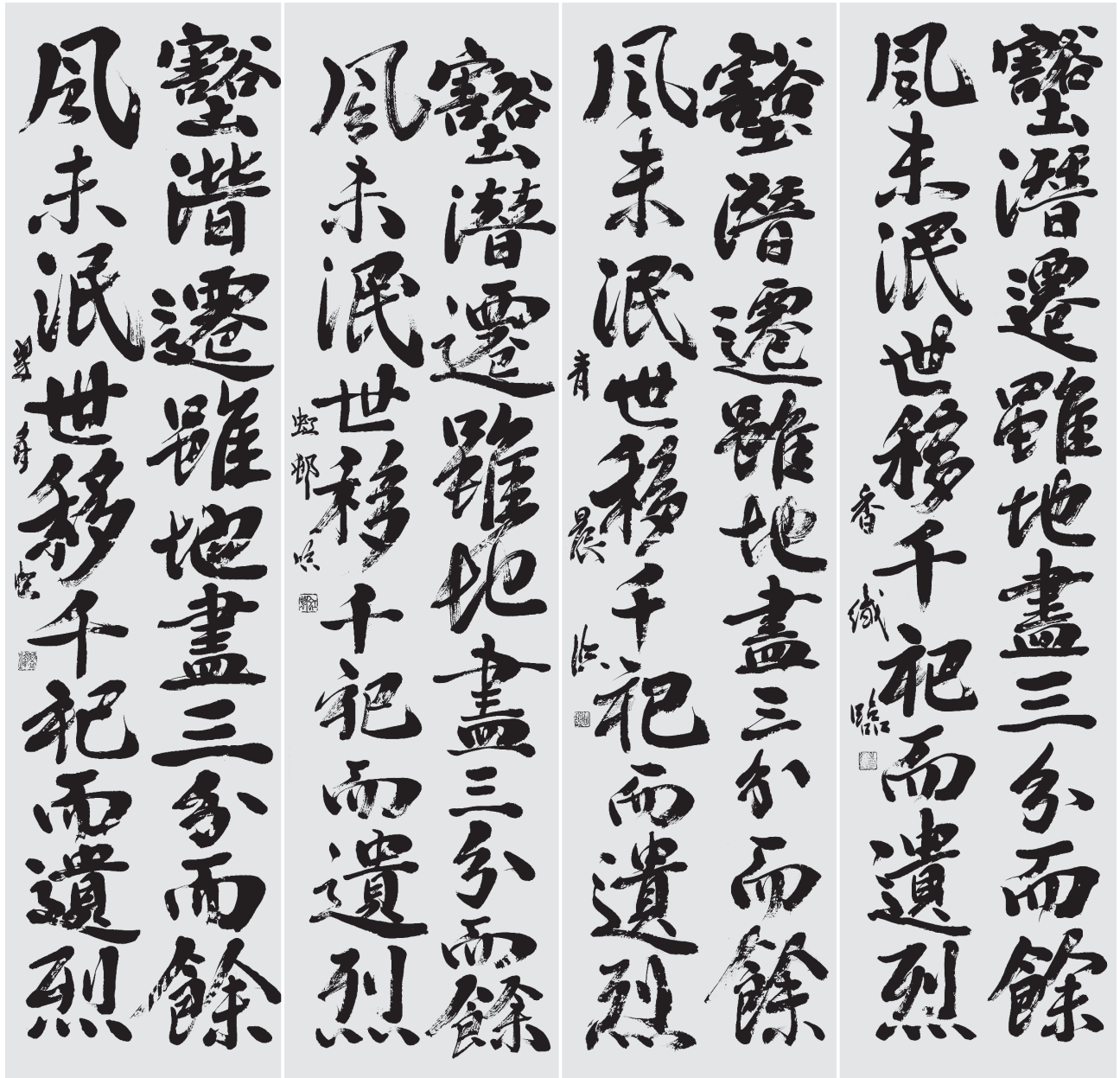


柳瀬 緑風 推選
 独特な表情とリズムで、全体を上手く纏めています。余白を多くとつていますが、これが作品効果を上げており、落款迄一貫性があり見事です。

中島 幽蹊 推選
 少し行間を狭くし、潤渴の変化が良く、渴筆の表現の仕方が魅力的です。「大い…横たえ」の雰囲気は面白く、力まない自然な運筆に実力の程が窺えます。

伊藤 由香 推選
 運腕大きく伸びやかな線質で堂々と書作されています。一行目の下、若干詰まりましたが、直線を生かした「大・氷河・雲・マッキンレイ」の佇まいが抜群です。

鯨井 香織 推選
 隸意風な文字の造形と、それにマッチした仮名の調和が、全体の章法として優れています。一文字の中の潤渴の変化が緊張感を与え、落款に至る迄安定している。



鯨井香織 推選
線が強く明るく活き活きしており、リズムも素晴らしく申し分なし。白眉である。

竹山青晨 推選
長鋒をお使いの様ですが、何ヶ所か渴筆線が浮いてしまった。筆管を倒し握り柔らかくゆつくり引きましょ。大小あり、リズム良く書けています。

町田虹邨 推選
大小、太細がいいですね。浮沈が良く出来ている証拠です。左払いがやや観念的。一行目「地盡」が大きいので下が窮屈になりました。お名前字間空けて太く。

喜多翠峰 推選
墨量充分で力強く堂々と書けています。若々しさを感じる作品です。「遺」の墨量、太さだったら、最後の「烈」書かなくても良かったかもしれません。

葛西玄涛先生選評



溝口恭華 師範
運筆が安定している、威風堂々である。腕の動きが自然に流れて、速度、浮沈が理想的なことから、重量感が強くても軽妙にまとまっている。

赤川勝彦 八段
それぞれの文字に主役となる線を一本ずつ注入している。魂を込めた縦画、左右への線は、ゆっくりと、紙に墨が浸透するように引かれています。

村田籬香 師範
気合の入った細線は、他の作品には見られない鋭く強い輝きを放ちます。画数の多少で線の太さを変えて、紙面の安定を生み出す知的な作品だ。

小川霞翠 師範
清澄で爽やかな空気が、伝わってくる。他と比較すると小粒な文字であったとしても、直筆から生じる透明度の高い線は、強い主張を有し、負けていない。

生野久美 準七
渴筆が適度に配されて、美しい。潤筆の沈着が作品を引き締めているが、潤筆だけでは平凡な作品となる。渴筆の重要性を勉強させてくれる。

今達也 師範
張猛龍の始筆の強さ、角度の重要性を訴えているように感じる。始筆の強さから、それぞれの線が強く表現されているのを参考にしていきたい。

安永箱光 四段
直線が主力でありながら、ゆったりとした空気を持っている。横画の速い運筆と、その他の線のやや遅い運筆の混在が、絶妙な配置で自然です。

鈴木浩子 準師
大きな円を描くような運筆から、左右への広がり強く感じます。この動きで破綻せずに小さい文字で制作していて、完成度が高くなった。

宮尾孔照 二段
始筆と終筆の圧力の変化が、多彩です。この変化が激しいと線の動きが鈍くなるが、手首を柔らかく使いながら、優しい動きの線を多くした。

伊東啓真 準七
いろいろな線を混在させて、明るく楽しい印象を持ちます。速度の速い線が、多くありながらどっしりと重心を左側とし、主張明確になった。

藤本美奈子 準二
この紙面の中で最も重く、太い線で表現されている。張猛龍の臨書への真面目な取り組みで、良い方向です。この真面目な取り組みに感服します。